東日本大震災避難当事者から見える7年後の状況と課題

2018年７月11日

東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream（サンドリ）代表

森松明希子

１．はじめに

東電福島原発事故から７年4ヶ月が経過したが、当初から現在に至るまで、原発事故の被災者、特に区域外避難者の実数と実態は未だに日本国政府によって把握されていない。従って、的確な施策の実施や保護がなされるに至っていないことは自明である。また、被災者・避難者の声（意見）は原子力災害直後から現在に至るまでほとんど考慮・反映されていないという点が指摘できる。

２．具体的状況

（１）避難の経過と避難を継続している理由

区域外避難者はほとんど公的支援がなく、信頼できる正確な情報提供もない中で苦闘している。

原発事故直後、放射能汚染は広範囲に広がるも人々に情報は知らされず無用な被ばくを重ねた。

放射線被ばくから免れ健康を享受する権利＝被ばくからの自由（避難の権利）、権利内容⇒被ばく拒否権・選択的被ばく回避権・被ばく情報コントロール権、根拠：人権、憲法前文、憲法13条

「避難」は「保養」の最たるもの、モニタリングポストは放射能の「見える化」による被ばく防護対策

別紙『特集　福島第一原発事故から七年　平和と個人の尊厳が守られる社会を求めて』参照

（２）実態把握について

避難者数は政策立案の基となる重要な数字。復興庁はもとより受け入れ先自治体は被災者・避難当事者の声に耳を傾け、正確な実態把握に努めて基本的人権に基づく保護義務を履行すべき。

（３）避難者いじめ問題

人権問題にほかならない。「子どもの権利条約」

学校・教育の現場で311被災状況、実態の把握、避難者への理解は？

「無知」ではなく「不知」（多様な被害実態を市民社会も把握していない）

「自主避難」は「自力避難」

（４）国際社会からみた311後の日本

3.11避難者は「国内避難民」（「国内避難民（国内強制移動）に関する指導原則」参照）に該当する。

福島原発事故の被害者の人権保護について，国連ではすくなくとも６回の勧告が出されている。

２０１２年１０月　第２回ＵＰＲ勧告（オーストリア）

２０１３年５月　　人権理事会グローバー勧告、社会権規約委員会

２０１４年７月　　自由権規約委員会

２０１６年３月　　女性差別撤廃委員会

２０１７年１１月　第３回ＵＰＲ勧告（４か国）（別紙参照）

⇒国連の勧告を直ちに受け入れ、完全に実施すること

（５）まとめ

放射線被ばくから免れ健康を享受する権利＝被ばくからの自由の確立（避難の権利）

被災当事者・避難当事者の参画と実態に即した必要な施策の実施

復興・再建へのすべての段階においての人権擁護の観点から外れない保護と救済

立法課題①「国内避難民に関する指導原則」に対応する国内立法化

②「グローバー勧告」の国内立法化

以上

原発の避難者
参院委で訴え
「被曝免れる権利を」

原発事故の避難者として3月、国連人権理事会でスピーチした森松明希子さん(44)＝福島県郡山市から大阪市に避難中＝が11日、参院東日本大震災復興特別委員会に参考人として招かれ「住宅提供が打ち切られてやむなく帰還する世帯もある。被曝を免れるための避難の権利を守ってほしい」と訴えた。

同理事会では昨秋、原発事故関連でドイツなど4カ国が日本に対し、避難民の権利の保護について述べた「国内避難民に関する指導原則」の適用や自主避難者への住宅支援の継続などを勧告している。

参考人として話す森松明希子さん

11日の参院特別委で森松さんは同原則に触れ「立法化をお願いしたい」とも訴えた。同じく参考人で出席した熊本美彌子さん(75)＝同県田村市から都内に避難中＝は、住宅提供を打ち切られた人のその後を全国調査するよう訴えた

自主避難 理解知って

国連演説 森松さん報告会

家族と離れる葛藤、住宅提供打ち切り…

東京電力福島第一原発事故の避難者を代表して、3月に国連人権理事会で演説した大阪市城東区の森松明希子さん(41)が9日、高槻市内で報告会を開く。森松さんは事故後、福島県郡山市から3人の子どもを連れて大阪市に避難した。「原発は各地にあり、福島のような惨事はほかでも起こり得る。当事者として問題を考えてほしい」と話す。(上地洋実)

国連人権理事会で演説した森松さん(中央)=本人提供

森松さんは2011年3月、勤務医の夫、長男と長女の家族4人で暮らしていた福島県郡山市で東日本大震災に遭遇。約1か月の避難所生活を送った。

長男の食事を確保するのが精一杯で、自らは水道水を飲んだ。後になって、水道水から放射性物質が検出されたことを知ったが、ペットボトルの水を入手するのは困難だった。

当初は福島で生活を再建するつもりで、4月に長男を幼稚園に入園させた。屋外で子どもを遊ばせられないため、週末は車で2時間もかけて県外に出かけた。子どもの健康を守るのに必死だった。

その後、「普通に子育てができる暮らしを取り戻したい」と自主避難を決意。仕事のために福島にとどまることにした夫を残し、5月に母子で実家のある兵庫県に近い大阪に移った。

家族が離れて暮らす選択が正しかったのか思い悩む中で、出会ったのが同じ自主避難者だった。交流会に参加するようになり、避難者の置かれた状況や必要な支援について情報発信をしていく必要性を感じた。

昨年9月に避難者の会を組織し、学校などで講演を重ねた。17年3月に自主避難者への住宅無償提供が打ち切られ、自主避難者が置き去りになっていくと感じる中、地道に活動を続けた。

そうした姿が国際NGOの目に留まり、国連人権理事会で避難者の声を伝える機会につながった。人権理事会は、加盟国の人権状況を審査する役割を担う国連機関。福島原発の事故について、自主避難者に対する住宅支援の継続などの勧告を日本にしていた。

3月19日にスイス・ジュネーブで開かれた人権理事会で演説した森松さんは、各国代表を前に、当時の体験を交えて、福島の状況や自主避難者が国や東電に損害賠償を求めて地裁に起こした集団訴訟の原告団代表でもあることを強調した。

森松さんは、関西の避難者が国や東電に損害賠償を求めて地裁に起こした集団訴訟の原告団代表でもある。

9日の報告会は高槻市の高槻現代劇場市民会館で午前10時半と午後2時から。森松さんは「原発事故の際に何が起きるのか、どう逃げるのか知ってもらい、自分ならどうするかを考える一助にしてほしい」と話している。参加費は大人500円、子ども100円。

高槻であす

大空襲 もう…

旭区 地元住民…

大阪市北東部を中心に約2800人が犠牲になったとされる1945年6月の「第3次大阪大空襲」から73年となった7日、大阪市旭区の城北公園で鎮霊法要があり、地元住民ら約60人が犠牲者の冥福を祈り、戦争のない世界の実現を願った。

大阪市を襲った8回の大…

…参拝者の冥福を祈り、原爆投下する…

6回の日本一に導く

西谷 浩・さん(31)

高校野球物語 122

大阪桐蔭

頂点への覚悟 直談判

2007年夏に期待を集めながら予選で敗れ、そして秋に大敗。「桐蔭は弱くなった」と周囲から揶揄された悔しさを晴らそうと、西谷が思いをぶつけた言葉に、部員たちは息をのんだ。

「日本一になるには、夏まで練習を、日も休めないかもしれない。それでもやるか、みんなで話し合ってほしい」。西谷は教室を出た。主将から思いを伝えられたのは1時間後だった。

「日本一を目指して本気でやります。それが僕らの気持ちです」

社会科の教諭でもある西谷は「思いを行動に移した」。中心選手の浅村栄斗(西武)らがいた3年生のクラス担任をさせてほしいと学校側に直談判したのだ。

「普段から部員と接する方が、より生徒のことを理解できると考えて」。西谷の決意の表れだった。

猛練習を重ねるチームに、飛躍を果たす機会が訪れた。08年春の大阪大会3回戦で、前年の秋にコールド負けしたPL学園との再戦が実現した。

だが、試合はPLペースで進む。「このままだと秋の二の舞いになる」。そう感じた西谷は五回終了時、ベンチ前で円陣を組み、言葉をかけた。結果的にチームの分岐点となる瞬間だった。(敬称略、随時掲載)

ご感想をメール(osaka2@yomiuri.com)やファクス(06・6361・0733)、手紙で社会部までお寄せください。

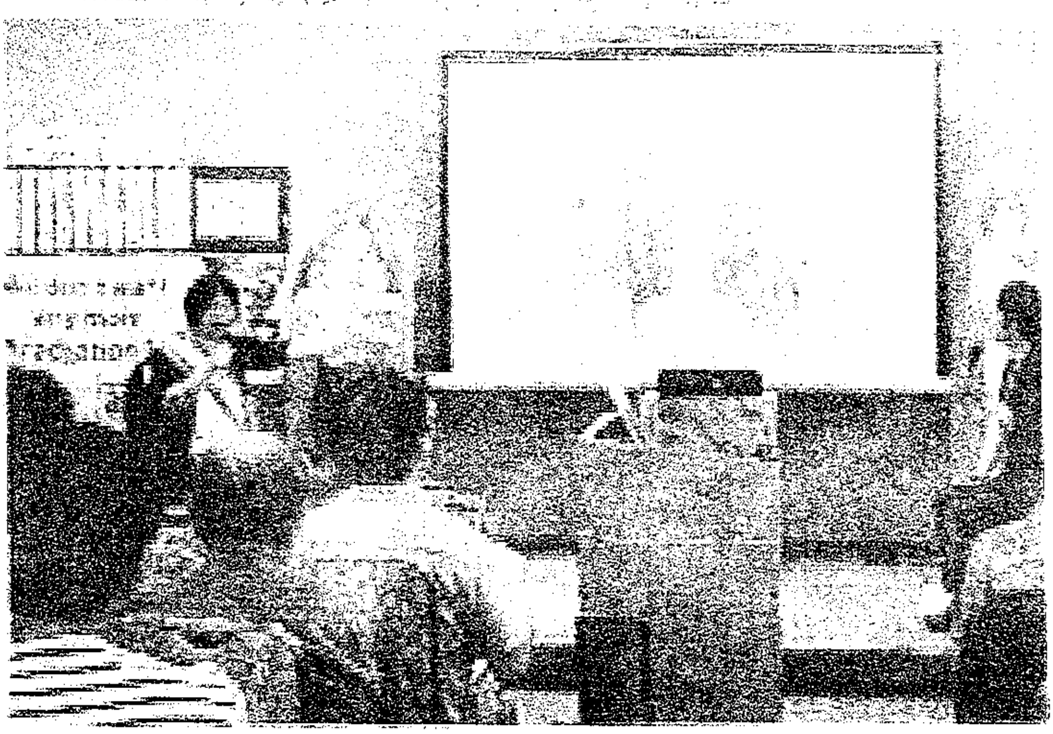
盗品買い取った疑い 逮捕

盗品のゴルフバッグを買い取ったとして、府警は7日、大阪市東住吉区杭全、古物商川西将吾容疑者(46)を盗品等有償譲り受け…

39…盗品…ゴルフバッグを…約3万円で買い取…

内

仮名
編中
本社
三重大阪
宇治
奈良佐野
株社社会部
1640 FAX 6361・0733
06・6857・2345
072・956・4988
072・841・6565
072・232・1072
072・456・7190
ジ
w.yomiuri.co.jp/local/osaka/
は
一 06・6363・7000
は 0120・4343・81
06・6367・8200
06・6367・9000



「原発事故、関心高さに感激」

福島から母子避難・森松さん

国連など海外講演の体験語る

…め各国政府や市民団体の代表を務める森松さんは、…で福島県郡山市に残った夫と離れて暮らす。3月、同様に母子避難している東日本の人ら…でスイスへ。スピーチは国際環境保護団体「グリーンピース」の支援を受けて行った。

森松さんは「事故後、放射線汚染は広がったが、情報は伝えられず、無用な被ばくを重ねた。今、水、土壌がひどく汚染される中、汚染した水を飲むしかなく、赤ん坊に母乳を与えてしまった」と当時の状況を説…

…どと訴えた。国連人権理事会…れ、…された。各国政府代表からも注目され内外で広く報道された。

市民団体に招かれたグルノーブルの講演では、事故当時の状況について…性が高いと分かり、被ばくから逃げるため、フランス政府のチャーター機で直後に離れた。日本国内で避難することも…どもたちの現状を知り、苦しい」と話したという。森松さんは「この会場でも鋭い質問が相次ぎ、最後は列ができてサイン会になった。信じられないような経験と関心の高さに触れ、感激した」と報告した。